

オープン勘定系システム「BankVision」の さらなる価値向上に向けた取り組みとして「BankVision2.0」に着手

BIPROGYは、外部環境の変化が激しい状況下における金融機関の課題解決、IT・経営戦略の実現に寄与するため、オープン勘定系システム「BankVision」のさらなる価値向上に向けた取り組み「BankVision2.0」を開始します。

第一弾として、BCP（事業継続計画：Business Continuity Plan）対策とサイバーセキュリティ対策のさらなる高度化を図ります。

【「BankVision2.0」の取り組み】

1. BCP対策の高度化 -東西リージョン間の環境自動切替技術を実装-

「BankVision」では、金融情報システムセンター（FISC）の安全対策基準に準拠し、有事に備えたバックアップ環境の提供、およびバックアップ環境へ本番データをほぼリアルタイムで反映することにより、有事の際に必要なデータリカバリー作業およびサービス中断時間の最小化を実現しています。しかし近年、金融機関を取り巻くリスク環境も複雑化しており、システム障害や自然災害などの有事においても、金融機関として重要な業務を最低限維持し継続できる能力であるオペレーショナル・レジリエンスの確保が求められています。このような背景から、BIPROGYは、クラウド環境を生かしたBCP対策のさらなる高度化を実現するため、以下3点をコンセプトとする東西リージョン（データセンターの所在地）間の環境自動切替技術を実装します。これにより、有事の際にも「BankVision」利用金融機関における銀行業務のサービス中断時間をさらに最小化しつつ、金融機関担当者に負荷をかけることなく切替前同様に業務継続することが可能となります。なお、本サービスは、2026年度の提供開始を予定しています。

① データの完全同期

オンライン、バッチともにデータの完全同期により、有事の際におけるデータ消失をゼロにし、データリカバリー作業が不要となります。

② システム環境切替の自動化

有事にシステム切替が自動で行われるため、手動オペレーションが不要になります。

③ システム環境切替時間の最小化

上記②により、切替時間を最小化します。

<東西リージョン間の環境自動切替イメージ図>

両環境とも縮退なく本番構成で稼働可能で、切替後、必要に応じて切り戻しも可能。



2. サイバーセキュリティ対策の高度化 - 「BankVision-CSIRT Partnership」設立-

昨今金融業界では、サイバー攻撃や金融犯罪の脅威が拡大し続けており、今後は量子コンピューター技術の進歩に伴い耐量子計算機暗号（PQC）対応なども発生し、より高度なサイバーセキュリティ対策が求められます。そこで BIPROGY は、「BankVision」利用金融機関と、BIPROGY グループのユニアデックスとともに、世界最高水準の情報セキュリティレベルを目指すセキュリティ協働組織「BankVision-CSIRT Partnership」を設立します。

「BankVision-CSIRT Partnership」では、「BankVision」利用金融機関のあらゆるセキュリティ対策に関する情報交換、共同検討、対策の実行を目的とした定例会の開催など、定期的な活動を通じて、勘定系システムにとどまらないサイバーセキュリティ分野における協働を推進します。

主な活動内容は、以下の通りです。

- ① 参加金融機関が利用する、サブシステムを含めたサイバーセキュリティ対策の共通化
- ② 金融庁から公表されている「金融分野におけるサイバーセキュリティに関するガイドライン」に対する「BankVision」の対応など、サイバーセキュリティ対策の実行
- ③ 参加金融機関の経営層などを対象とする、サイバーセキュリティに関する勉強会の開催
- ④ 参加金融機関における取り組み内容共有や、担当者間のネットワーキングを目的とした定例会の開催
- ⑤ 新たな脅威や脆弱性についての情報収集と対策のディスカッション

■ 「BankVision-CSIRT Partnership」の参加企業

- | | | |
|-------------|---------------|------------|
| ・株式会社山梨中央銀行 | ・株式会社北國銀行 | ・スルガ銀行株式会社 |
| ・株式会社大垣共立銀行 | ・株式会社百五銀行 | ・株式会社紀陽銀行 |
| ・株式会社筑邦銀行 | ・株式会社佐賀銀行 | ・株式会社鹿児島銀行 |
| ・株式会社西京銀行 | ・株式会社商工組合中央金庫 | |

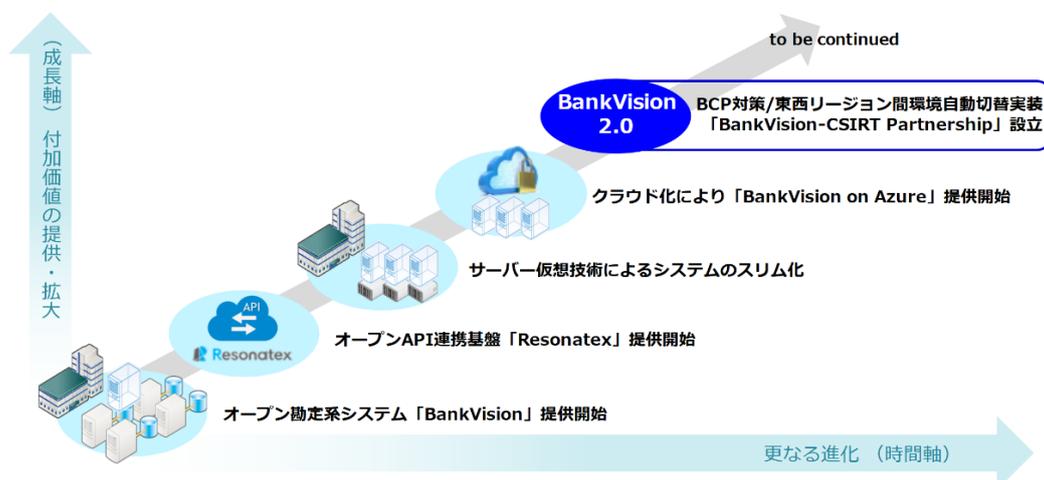
(2025年5月現在、金融機関コード順)

【「BankVision2.0」について】

これまで BIPROGY では、2007年のオープン勘定系システム「BankVision」稼働開始以降、インフラ基盤の仮想化・クラウド化、API連携などを先駆けて実施してきました。このたび、これまでの取り組みに加え、「BankVision」のさらなる価値向上に向けた取り組み「BankVision2.0」を開始します。

BCP とサイバーセキュリティ対策をはじめとして、外部との連携を推進する API サービスの提供や、開発負荷軽減を狙いとした生成 AI の活用など、さまざまな取り組みで、金融機関の課題解決および IT・経営戦略の実現を、トラステッドパートナーとして支援し続けます。

<「BankVision」全体ロードマップ>



以上

■ 関連リンク：

勘定系システム「BankVision」：<https://www.biprogy.com/solution/service/bankvision.html>

※BankVision は、BIPROGY 株式会社の登録商標です。

※その他記載の会社名および商品名は、各社の商標または登録商標です。

※掲載の情報は、発表日現在のものです。その後予告なしに変更される場合がありますので、あらかじめご了承ください。

<本ニュースリリースに関するお問い合わせ>

https://www.biprogy.com/newsrelease_contact/

BIPROGYグループの「経営方針（2024-2026）」

「持続性のある事業ポートフォリオ確立による企業価値の向上」、「経営資源配分の最適化」、「グループ経営基盤の強化」の3つの基本方針を基軸に、「コア事業」と「成長事業」の両輪で事業拡大を図ります。

コア事業	成長事業
集中と選択により強みのある領域を確立し 提供価値と収益性を高める	積極的な投資により提供価値を高め 新たな収益基盤を確立する
<ul style="list-style-type: none">注力領域の明確化により強みある領域の確立開発生産性・安定性の向上サービス型ビジネスの拡大	<ul style="list-style-type: none">新たなサービス領域の獲得と成長市場におけるシェア獲得社会課題を解決する社会DX事業の共創・展開の加速ASEAN主要国でのビジネス展開
ファイナンシャル リテール エネルギー モビリティ OTインフラ	市場開発 事業開発 グローバル

【コア事業での取り組み】

BIPROGY グループが経営方針（2024-2026）で掲げるコア事業戦略として、五つの注力領域を定め、経営資源の集中により高い価値提供を目指します。本ニュースリリースの事業は、「ファイナンシャル領域」における取り組みと位置付けています。

BIPROGY グループは、多くのステークホルダーとの共創を通じて、地域経済の活性化を支援し、持続可能な社会の実現を目指します。

※BIPROGY グループ経営方針（2024-2026）

<https://www.biprogy.com/pdf/com/managementpolicy2024-26.pdf>